



カレッジ情報2015

2015. 10. 6 (火) 10月号

発行：秋田県生涯学習センター
tel: 018-865-1175



秋田市探訪vol.4 (C5) 【移動学習】～寺内編～



前回のC4講座では、最北の古代城柵官衙(かんが)として秋田城とはどういう施設であったのかを調査事務所の神田和彦氏にお話しいただきました。それを受ける形で「秋田城跡ボランティアガイド」の皆さんに史跡をご案内いただきました。史跡東側の東門・水洗廁舎跡・四天王寺跡、史跡中央部の出土品収蔵庫、史跡西側の政庁跡を見学しました。水洗廁舎跡は建物が復元され、「発掘時の状態がそのまま見ることができる状態のもの」と「使い方を考えて

復元したもの」があり、興味をそそられました。水洗というからには常時水が流れていたかと思いきや、その付近に流れの水源となるものはないため「甕(かめ)に水を貯めておき、柄杓で流していた」ということに誰もが驚いていました。出土品収蔵庫では、出土した木製品(柱や井戸の隔壁など)を見て、その優れた加工技術にも驚かされました。政庁跡では、その規模に圧倒されました。それらをボランティアの方々に詳しく解説していただき、とても理解が深まりました。現在、休日も含めて午前10時から午後4時まで、ボランティアガイドの方々は出土品収蔵庫に常駐しているそうです。皆さんも、ガイドの方々の話を聞きながら、史跡を歩いてみてはいかがでしょうか。

あい LOVE あきた (D7) 「地方再生の視点と方法」

講師：NPO法人 秋田移住定住促進センター 理事長 荒谷 紘毅 氏



平成25年3月に、現在のように地方都市の人口減少が続いたら、今後どれくらいで人口ゼロになるかという「都市余命」が国立社会保障・人口問題研究所より発表されました。それに衝撃を受けた方は少なくないと思います。そのような事態を避けること、それが地方再生であることに、誰も異論はないと思います。荒谷氏は平成22年に「ようこそ秋田移住促進会議」を立ち上げ、25年には現在の秋田移住定住促進センターを設立し、県外から秋田への移住を勧めてきた方です。昭和30年代から東京への一極集中が進ん

で地方都市の衰退が始まって現在に至っていること、そこから秋田への移住を勧めなければならないと思うに至った経緯、そして現在の取り組みを詳しくお話しいただきました。働き盛りの人々を呼ぼうと思ってもなかなか働き口がないことが問題であること、若い人を呼び戻したいと思っても同じ問題があること、現状においてはむしろリタイヤした人たちを呼び込むことが重要であること、そして男性よりも女性(妻)の側に主導権があつていかに女性を取り込むかが鍵であることなど、様々な視点からお話しいただきました。一番印象に残ったのは、「大きな経済効果が見込まれるからといって、郊外に大規模企業を誘致したところで、その結果としてパイの取り合いとなつて、旧来からの地元中小企業が廃業に追い込まれるケースが多い。年をとった時に『近くに店舗がない』という事だつて起こりうる。だから、郊外に大規模企業を誘致するのはどうだろうか」という言葉でした。私たちの将来を皆で真剣に考える時が来ている、まさにそう思えた講座でした。

カレッジ情報のバックナンバーは、秋田県生涯学習センターWebサイト
<http://www.pref.akita.lg.jp/lifelong/>からダウンロードすることができます。

学ぶためのまなび方 vol.3 (E1) 「続・江戸期から明治への文学」

講師：秋田大学・秋田県立大学 名誉教授 佐々木 久春 氏

9月から『学ぶためのまなび方 Vol.3』(全8回)が始まりました。1回目は昨年度に引き続き、佐々木久春氏に「化政期の文学」というテーマで、宝暦期に出現した黄表紙・洒落本、化政期に出現した人情本・滑稽本・読本・合巻について、時代背景を交えてお話しいただきました。宝暦期までに社会が安定し、寺子屋が普及し始め、絵本に近かった赤本から文字主体の黄表紙となっていく様子。洒落本が当時の風俗を描いていたものであったことから「寛政の改革」で風俗取り締まりにあって、洒落本が発行禁止となっていく様。そのような状況から化政期に人情本などへと変化していく様が、実物史料を見ながら手に取るようにわかりました。「教科書にのらない歴史」を見る思いでした。



この後も、理科・英語・音楽・世界史・体育と様々な分野が登場します。学ぶ楽しさを発見する機会として、皆様もふるってご参加下さい。

発見!ミュージアムゼミ (T3) 「秋田の絶滅の恐れがある生物」

講師：秋田県立博物館 主任学芸主事(兼)班長 梅津 一史 氏

秋田県版レッドデータブックの作成にも活躍しておられるのが秋田県立博物館の昆虫専門家、梅津一史氏です。ここ十数年の間に見られなくなった植物や昆虫の具体例を挙げ、今まさに何が問題なのかをお話しくいただきました。

生態系を保護するには白神山地のように人間が手を付けない方がよいものもあれば、里山の雑木林や草原のように人間が手を付けること(下草刈りによる雑木林の保護や焼山による草原保護など)が必要なものもあること、生物種を特定しない保護こそが重要になってきていることなどを既に絶滅したと思われる植物・昆虫を中心にお話しくいただきました。



しかし何よりも重要なことは、「将来の専門家や調査従事者などの人材の問題があるということでしょう。自分が引退した後、それに続く人がいるのだろうか。例えば30年後に調査しようと思っても、できるのだろうか」と言う梅津氏の言葉に、「続く人、現れよ!」そう願うばかりでした。

明快!Artゼミ (L3) 「彫刻家 峯田敏郎」

講師：秋田県立近代美術館 主任学芸主事 保泉 充 氏



峯田敏郎氏は、現在も活躍されている1939年(昭和16年)山形市生まれの彫刻家です。秋田には1977年(昭和52年)に秋田大学助教授として赴任し、1982年(昭和55年)には教授となり、1986年(昭和61年)に上越教育大学に移籍するまでの8年間を秋田で過ごしました。その間に数多くの作品を仕上げ、秋田市内の公園にも数多くの作品を残しています。今年度特別展として「峯田敏郎彫刻展」が11月29日

(日)～2月7日(日)の予定で開催されます。展示に向け、これまでの峯田敏郎氏の代表作を取り上げ、作品解説を行なっていただきました。特別展への期待が高まるとともに、「確かあそこの公園にもあったよな」と公園にある彫刻の作者をもう一度確かめてみたくなる講座でした。